

2024年度 第7回京都府立医科大学臨床研究審査委員会 (CRB5200001)

審査意見業務の過程に関する記録

開催日時：2024年10月9日(水) 14:30～15:20

開催場所：第5会議室(管理棟5階)及びWeb会議システム

<委員出欠>

氏名	所属	性別	構成要件	設置者との 利害関係	出欠	備考
◎森 泰輔	京都府立医科大学大学院医学研究科 女性生涯医科学教授	男	①	有	○	
○天谷 文昌	京都府立医科大学大学院医学研究科 麻酔科学教授	男	①	有	○	
福井 道明	京都府立医科大学大学院医学研究科 内分泌・代謝内科学教授	男	①	有	○ (WEB)	15:00 退室
瀬戸山 晃一	京都府立医科大学大学院医学研究科 医学生命倫理学教授	男	②	有	○ (WEB)	
伊谷 賢次	西陣病院名誉院長	男	①	無	○ (WEB)	
櫻田 嘉章	京都大学名誉教授	男	②	無	○	
鍋島 直樹	龍谷大学文学部教授	男	②	無	○ (WEB)	
重村 達郎	ひまわり総合法律事務所弁護士	男	②	無	○ (WEB)	
山田 宗正	大徳寺真珠庵住職	男	③	無	×	
安田 京子	認定NPO法人ささえあい医療人権 センターCOML委員バンク登録会員	女	③	無	○ (WEB)	
住田 翔子	立命館大学産業社会学部准教授	女	③	無	○ (WEB)	

◎委員長 ○副委員長

構成要件

- ① 医学又は医療の専門家
- ② 臨床研究の対象者の保護及び医学又は医療分野における人権の尊重に関して理解のある法律に関する専門家又は生命倫理に関する識見を有する者
- ③ ①又は②以外の一般の立場の者

審査意見業務の要件

- ・構成要件①②③の者から構成されること

- ・委員の過半数が出席すること
- ・男性及び女性がそれぞれ1名以上含まれていること
- ・同一の機関に所属している者が半数未満であること
- ・委員会を設置する者の所属機関に属しない者が2名以上含まれていること

#### 出欠

- (出席し、かつ当該研究等に関与しない委員)
- × (欠席した委員)

#### 議題：

##### 1. 審議案件

###### 【新規申請】

受付番号	2024003
課題名	子宮頸部上皮内腫瘍における画像強調内視鏡診断の有用性の評価
研究責任(代表)医師	土肥 統
実施医療機関	京都府立医科大学附属病院
受付日	2024年5月17日
審議・採決に不参加の委員及びその理由	森委員長 (当該研究の研究分担医師) 福井委員 (退室)
説明者	落合 都萌子、土肥 統
審査結果	継続審査 (簡便審査)

森委員長は本研究の研究分担医師のため、天谷副委員長が議事進行を行った。

研究代表医師により、研究の概要の説明が行われた後、事前に技術専門員から提出された意見及びそれらに対する研究者の回答を確認後、質疑応答が行われた。

診断アルゴリズムの元資料を研究計画書に記載すること、対象年齢の20歳以上について再考すること、説明文書3の「子宮頸部内視鏡 検査 (UCE : Uterine Cervical Endoscopy) 検査」を修正すること、研究計画書14.3に副次評価項目の解析方法を記載すること、患者に対し、麻酔による有害事象についても説明すること、と意見があった。

審議の結果、委員からの指摘に関して実施計画、研究計画書及び説明文書の修正が必要との結論に至り、全会一致で継続審査 (簡便審査) となった。

###### 【変更申請】

受付番号	2022013-26
課題名	PD-L1 高発現を伴う EGFR 遺伝子エクソン 19 欠失変異もしくは

	L858R 変異陽性進行・再発非小細胞肺癌に対するラムシルマブとエルロチニブ併用療法の有効性と安全性に関する第 II 相試験 (SPIRAL-3D)
研究責任(代表)医師	山田 忠明
実施医療機関	京都府立医科大学附属病院
受付日	2024年9月20日
審議・採決に不参加の委員及びその理由	福井委員 (退室)
説明者	なし
審査結果	承認

事務局より、今回の変更申請は、研究分担医師の変更及び利益相反に関する開示内容の変更に伴う、実施計画等の改訂であるとの説明後、審議が行われた。研究対象者の被るリスクや負担を増加させない変更であり、研究対象者保護について担保されているとの結論に至り、全会一致で承認となった。

**【定期報告】**

受付番号	2021013-3
課題名	運動療法とリエントラント型空洞共振加温器による膝温熱療法の早期 変形性膝関節症に対する治療効果解析
研究責任(代表)医師	劉 和輝
実施医療機関	金井病院
受付日	2024年9月19日
審議・採決に不参加の委員及びその理由	福井委員 (退室)
説明者	なし
審査結果	承認

事務局より、定期報告の内容の説明後、審議が行われた。報告内容は適切であり、研究の継続は可能との結論に至り、全会一致で承認となった。

以上